



今回の発見!

源氏ゆかりの旧橋脚と神社を訪ねる

小出川に架かる下町屋橋の近くに、国指定史跡旧相模川橋脚があります。これは大正12(1923)年9月1日の関東大震災と翌13年1月15日の余震によって出現した大きな橋杭の列です。

当時、歴史学者沼田頼輔によって、鎌倉時代の建久9(1198)年に、源頼朝の重臣稲毛三郎重成の亡き妻(北条時政の娘)の供養のために架けられた橋と考証されました。

大正15(1926)年10月20日に国の史跡に指定された後、約80年間池の中で保存されてきました。近年、一部に腐朽が見られることから、市では、国と県の協力を得て19年度までの予定で保存整備事業を進めています。橋脚はヒノキの丸材で、最大のものは周囲2.1(直径約60cm)ほどで、これまでの調査の結果10本が確認されています。

本遺跡は、中世の橋遺跡であるとともに地震痕跡を残す貴重な史跡で、桜の名所としても知られています。

【生涯学習課文化財保護担当】



ちがさき丸ごと発見博物館事業では、都市資源の解説・説明をする丸ごと博物館ガイドを、学習会やフィールドワークを聞いて養成しています。

鶴嶺八幡社

社殿前のイチヨウは県指定の天然記念物。

鎌倉前院
3件の市指定の重要文化財(宝篋・唐申塔・五輪塔十基)がある。

本社宮

矢野の鎮守様。唐申塔は、市指定の重要文化財。

御蔵跡と堀
池は埋められ堀跡と水路の名残が。



本社宮跡



梅雲寺

浄土宗の寺。
「難陀三寶荒神」は江戸時代、江戸に連れてこられた。



鶴嶺八幡社参道と船並木
江戸時代に整備された船並木は市の天然記念物。参道は市の史跡に指定。

鎌倉古道
鎌倉と各地を結んだ中世の古道。



馬頭観音
寛政7(1795)年建立
市内最古の馬頭観音像



旧相模川橋脚



出現当時水田の中の橋脚

南湖の左富士の碑

浮世絵師谷崎広重の風景版画「五十三次名所図会」に描かれた名所。



弁慶塚

義経を御霊神社にまつり、家来であつた弁慶の霊を供養した。

